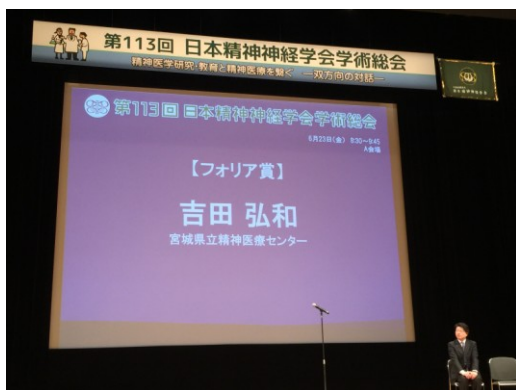


日本精神神経学会よりフォリア賞を受賞しました（2017/6/22）

テーマ：災害後の子どもの心的外傷後成長と震災の記憶との向き合い方について
場所：名古屋国際会議場（愛知県名古屋市）

災害精神医学分野大学院生・吉田弘和先生（現・宮城県立精神医療センター）の博士研究の成果を日本精神神経学会が発行する国際学術雑誌 Psychiatry and Clinical Neuroscience に掲載していた論文が年間最優秀論文に授与されるフォリア賞を受賞しました。吉田先生が宮城こども総合センターに在職中に、災害精神医学分野の社会人大学院生として、災害科学国際研究所との共同研究により進めた研究で、教育委員会や各学校を回って事前の打ち合わせや事後の子どものケアへの配慮を十分に行いながら調査を実施した成果です。平成 29 年 6 月 22 日から 3 日間に渡って名古屋国際会議場で開催された第 113 回日本精神神経学会総会において、その受賞式典が行われ、吉田先生が受賞講演を行いました。

受賞となった論文のタイトルは” Post-traumatic growth of children affected by the Great East Japan Earthquake and their attitudes to memorial services and media coverage.” です。心的外傷後成長（Post-traumatic growth: PTG）は、「人生における危機的な出来事やトラウマティックな出来事との精神的なもがき・闘いの結果としてもたらされる、ポジティブな心理的変容の体験」と定義されます。従来専ら大人で検討されてきており、子どもに関するプロファイルは余り調べられてきていませんでした。本研究では、東日本大震災の被災地の子ども約 3 千名を対象とし、震災後 31 か月時点で、心的外傷後ストレス反応(PTSR)とともに PTG の程度を評価しました。PTG と性別、被災体験には有意な関連はありませんでしたが、PTG は年齢と負の相関が認められ、PTG と PTSR には非常に弱い負の相関が認められました。PTG と法事参加やメディア視聴に関する前向きな態度との間の相関を検討したところ、両者の間には有意な相関が認められました。環境と心理的状況が整えば、意図的反芻に相当する事柄への前向きな態度は、自然災害後の子どもの PTG を促進する面があることが示唆されます。



会場の様子



吉田弘和先生（壇上右手）

文責：富田博秋（災害と健康ユニット）